

報 廣 県

とやま

特集/県政世論調査

TOYAMA PREFECTURAL REPORT



富山県

1

1996
No.324

山間に息づく人類の遺産

上平村菅沼集落

レポーター: 高岡法科大学 原田ゆかりさん
(表紙の人)



このたび平村の相倉と上平村の菅沼の両集落が、岐阜県白川郷の荻町集落と合わせて、「白河郷・五箇山の合掌造り集落」として、ユネスコの世界遺産に登録されたのは、記憶に新しいところです。世界遺産とは、貴重な建造物や遺跡、自然の保護・保存を世界的規模で行う制度で、今回の登録は日本の民宿「五郎平」を営んでおられる高橋さんのお宅におじゃましました。さっそく囲炉裏のある広間に案内してもらい、暖をとりながら高橋さんにいろいろお話を伺いました。菅沼集落

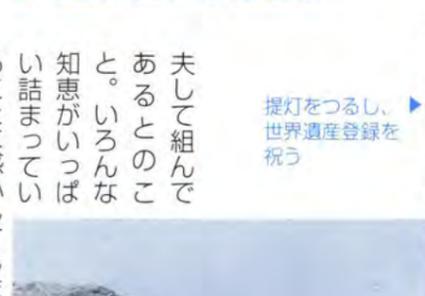


▲様々な工夫がなされている家屋内▲



▲囲炉裏端で談笑

には八戸の合掌造り民家があります。私が見たのは、その大きさもさることながら、屋根がとも急勾配なこと。これは屋根雪を滑りやすくするだけではなく、「アママ」と呼ばれる屋根裏を主要な生業であった養蚕を行うスペースとして最大限に活用するためだそうです。また、柱は雪の重みに家屋が耐えられるように最大限に工



▶提灯をつるし、世界遺産登録を祝う



▲静かなたたずまいの菅沼集落

夫して組んであるとのこと。いろいろな知恵が詰まっていることに感心してしまいました。さて、世界遺産への登録で、五箇山の合掌造り集落が人類全体の遺産として認められたことに高橋さんも「凄いことになった」と感慨深げ。山間の人々が生み出し、幾代にもわたって育まれ、そして今も脈々と息づいている菅沼集落。その静かなたたずまいは、日本人が忘れかけた何かを思い起こさせてくれるような気がしました。

年頭の辞



新しい年を迎えて

富山県知事 中沖 豊

明けましておめでとうございます。県民の皆様とともに新春を寿ぎたいと存じます。今日、国内外とも「激動と混乱」の度合いを深めておりますが、このような先行きの不透明な時代を切り拓いていくためには、何よりも未来を洞察する明確なビジョンを持ち、柔軟な発想と逞しい行動力により、これを着実に実行していくことが極めて重要であります。

富山県は今、新しい県民総合計画に基づき、「人材立県」「生活立県」「国際立県」の三つの立県構想を掲げ、全国に誇ることができるすばらしいふるさとづくりを進めてまいります。また、住民と地方が主役であるという観点から、「地方集権」の推進に積極的に取り組んでいるところであります。

幸い本県は、経済企画庁の平成七年版新国民生活指標で、「遊ぶ」分野が三年連続全国第一位、「働く」、「学ぶ」、「遊ぶ」の各分野が第二位、「安全・安心」の面で第一位になるなど、県民の皆様のご尽力により、豊かさ先進県として高い評価を受け、新しい時代に向かって着実に、そして順調に歩みを進めてまいります。今後さらに、「住みよい県」から「住みたい県」となりますよう、県民の皆様とともに、全力を尽くしてまいりたいと考えております。

とりわけ環日本海時代を迎え、「日本海国土軸」や「日本中央横断軸」の形成、環日本海交流の中核拠点づくりに努めるとともに、友好交流と国際協力を一層進め

てまいります。

また、昨年五月には北陸新幹線富山駅整備の起工式が行われ、この春には能越自動車道の小矢部・福岡間が供用開始いたしますが、今後とも、北陸新幹線、各高速自動車道、富山空港、伏木富山港の整備促進など、総合的な交通体系の整備を進めてまいります。

さらに、中央植物園が本年四月に全面開園いたしますが、引き続き、とやま健康村、総合福祉会館、女性総合センター、勤労者総合福祉センター、水墨画に関する美術館、立山カルデラ砂防博物館、西部総合体育館等の整備、子供を生み育てやすい環境づくり、世界遺産に登録された「五箇山の合掌造り集落」の保全、総合的な防災対策など、県民の健康福祉と生活文化等に関する各種の重要施策を積極的に推進してまいります。

特に、現在の厳しい経済環境に即応した景気・雇用対策、新たな国際環境に対応した農業農村・中山間地域対策などに取り組むほか、インターネットによる多彩な富山情報の発信など高度情報化施策を推進してまいります。

本年は、「第十三回全国都市緑化とやまフェア」、「第十一回国民文化祭とやま」など大きなイベントを開催いたします。また、「2008年 県民が燃えるプログラム事業」が展開されます。まさに、富山県のイメージアップを図る絶好の機会であり、県民の皆様の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。今年の子年。子年は十二支の始まりの年であり、物事が芽生え始める年であるといわれています。折しも、間近に控えた二十一世紀への架け橋となる新県民総合計画後期事業計画がスタートいたしますが、今後とも新しい時代にふさわしい夢と希望に溢れた県づくりを進め、富山県が限りなく発展しますよう願ってやみません。県民の皆様のご協力を切にお願い申し上げます。皆様のご健康、ご多幸を心からお祈り申し上げます。新年のあいさつといたします。

1 CONTENTS

1月号もくじ

とやま遊学感	表紙
撮影/赤羽仁諭(富山県写真家協会)	表紙
知事年頭の辞/富山県知事 中沖豊	1
トピックス①/一日部長・一日庁議	2
特集/第26回県政世論調査	4
PINUPPTOYAMA 写真/滝川邦彦(日本写真家協会) 詩/池田瑛子(富山現代詩人会)	8
トピックス②/児童環境シンポジウム	10
エッセイ/坂本信義 (医療法人・魚津神経サナトリウム理事長)	12
シリーズ/花ある人を育てる緑 彩りとやま緑化祭'96 IV	13
県からのお知らせ	14
暮らしのアドバイス	16
とやまの祭事記/獅子分け神事(下村)	表3

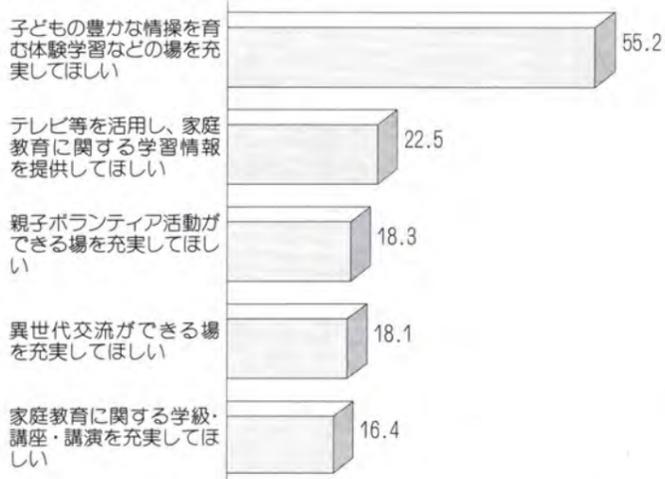
戦後最大の地震被害をもたらした「阪神・淡路大震災」は、人々に地震の恐ろしさを再認識させるとともに、防災への関心を高めました。今回の調査によれば、約六割の人が大地震に対する不安を感じています。

地震が発生した場合、特に心配な事として約八割の人が「建物の倒壊」、「火災の発生」をあげています。また、「食料や飲料水の確保」、「電気・ガスの供給や電話の不通」がともに六割台と高くなっています。

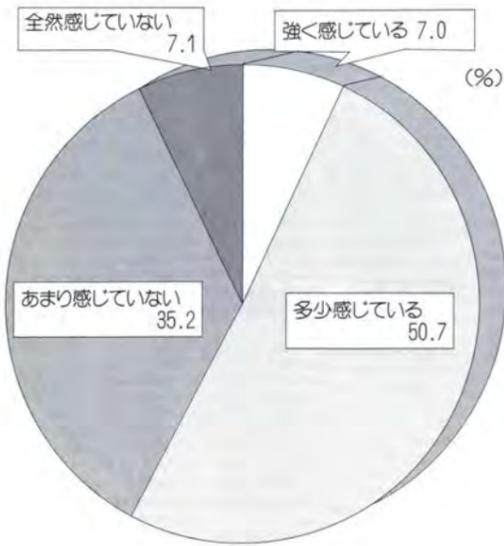
なお、日頃から地震やその二次災害に対して備えているものとしては、懐中電灯、携帯用ラジオが比較的多いものの、救急医療品、消火器、食料、飲料水などはいずれも一割台と少なくなっています。

防災対策【地震】

□家庭生活に関して県や市町村に望むこと (上位5項目・複数回答)



○大地震に対する不安

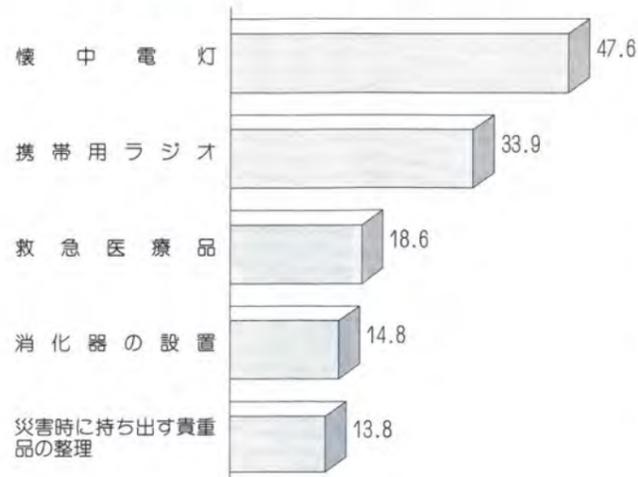


地震対策として県に望むことでは、「電気、水道、ガス、電話の確保」を筆頭に、「飲料水、食料、毛布等の備蓄」、「地震、津波情報の迅速な収集と県民への提供」、「医療救護体制の整備」などが続いています。

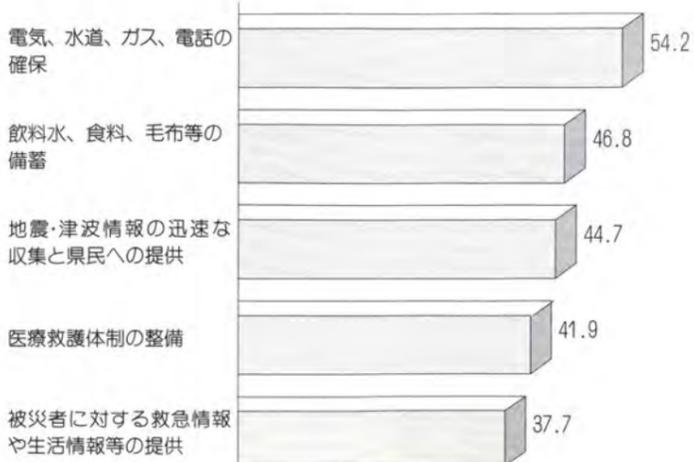
地震被害を最小限に食い止めるには、県民一人ひとりが防災意識を持ち、日頃の備えを怠らず、自主防災に努めていくことが何よりも大切です。県としても、地域防災計画の見直しを進めているほか、都市型震災訓練の実施、防災に関する啓発活動の充実など、これからも災害に強い県づくりを推進していきます。



○地震や地震による二次災害に対する備え (上位5項目・複数回答)



○県に望む地震対策 (上位5項目・複数回答)



特集 第26回 富山県政世論調査



調査項目

1. スポーツ
2. 家庭の役割
3. 国民文化祭
4. 高齢者対策
5. 防災対策(地震)
6. ごみの減量化・再生利用
7. 暴力団関係
8. 交通安全
9. 地域づくり
10. 森林づくり
11. 全国都市緑化どやまフェア
12. 自然公園などの利用
13. 観光富山
14. 施設の利用
15. 広報・公聴
16. 施策の認識
17. 県政への要望

今日、社会経済情勢の変化は著しく、人々の価値観はますます多様化しています。県では、県民のみなさんが県政や日常の諸問題にどのような関心や期待を持っているかを把握し、県政の基礎資料とするため、毎年、県政世論調査を行っています。

今回は、県内各地域の成年男女1200人を対象に、左記の項目について実施しました(回収率77.3%、回収数928人)。ここでは、その一部を抜粋して紹介します。

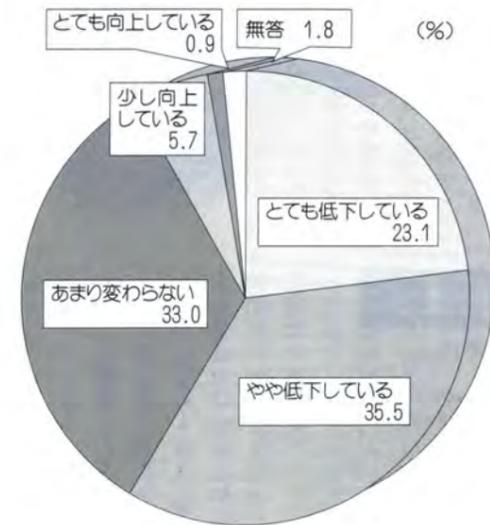
家庭の役割

核家族化や少子化、女性の社会進出など、家族や家庭の形態とそれを取り巻く環境は大きく変化しています。また、最近のいじめの社会問題化により、人間性の形成という面での家庭の役割がクローズアップされています。

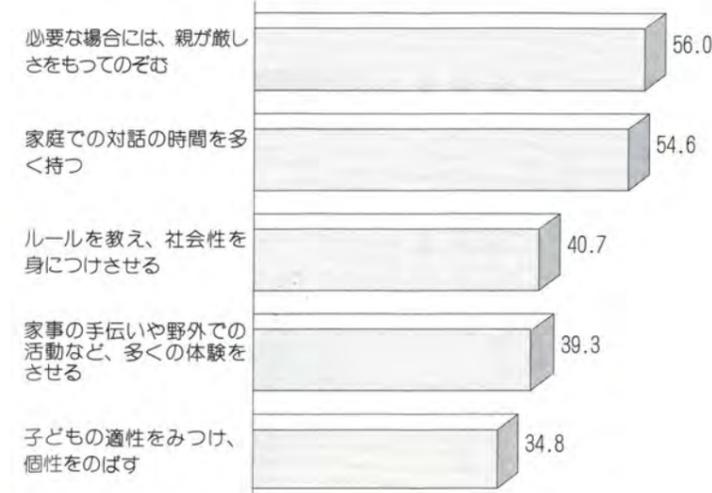
子どものしつけなど最近の家庭での教育力については、「低下している」と答えた人が約六割にのぼりました。また、子どもの教育で特に重視すべき点としては「必要な場合には、親が厳しさをもち望む」が56%で最も多く、次いで「家庭での対話の時間を多く持つ」、「ルールを教え、社会性を身につけさせる」の順となっています。

なお、家庭生活に関して県や市町村に望むこととしては、「子どもの豊かな情操を育む体験学習などの場の充実」を筆頭に、「テレビ等を活用し、家庭教育に関する学習情報の提供」、「親子ボランティア活動ができる場の充実」などが上位を占めています。

□最近の家庭における子どもへの教育力

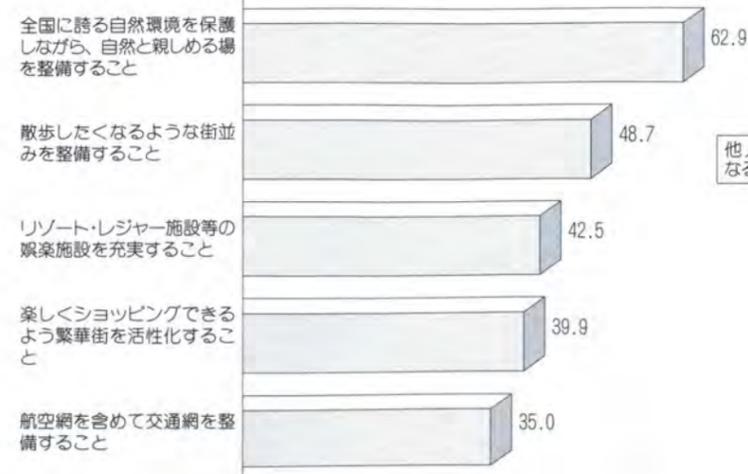


□子どもの家庭教育で特に重視すべき点 (上位5項目・複数回答)

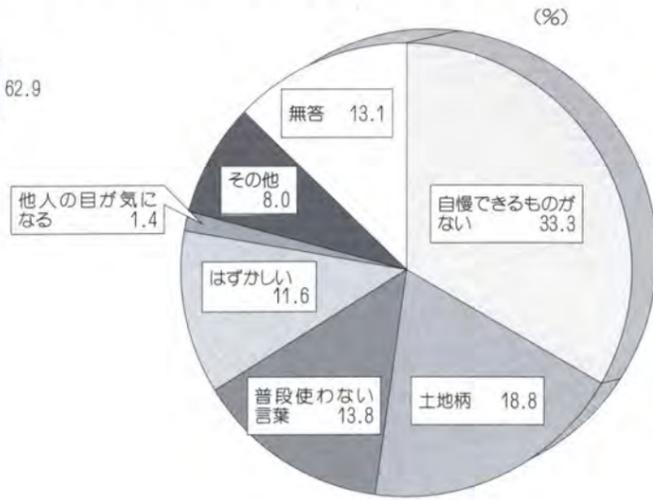


県では、自然体験活動を通じて親子のふれあいを図る事業の展開や、テレビ番組・啓発資料等による情報提供、電話・巡回による相談事業の実施などを通じ、今後も思いやりのある温かい家庭づくりを支援していきます。

◆県外からの観光客を快く迎えるために必要だと思うこと（上位5項目・複数回答）



◆歓迎の気持ちを表すことができない理由



ごみの減量化・再生利用

近年、ごみの増加や多様化など、生活廃棄物を取り巻く問題が深刻化していることから、ごみの減量化や再生利用を進めるリサイクル社会の形成が重要となっています。



家庭から排出されるごみの減量化については、三人に一人が「非常に重要なことだ」と思う」と答えており、「ある程度重要なことだ」と答えると、ほとんどの人がその重要性を認識しています。

ごみの減量化や再生利用のために行っていることとしては、「新聞紙、段ボールなどをPTA等の行う集団回収に出している」が約七割と最も多く、次いで「資源ごみを空き缶、びんなど市町村の収集区分に従って出している」の六割となっています。以下、「トレイ、牛乳パックなどをスーパー等の店頭回収に出している」、「トイレットペーパーは再生品を積極的に使うようにしている」が続きますが、いずれも二割台と低い状況にあります。ごみの減量化・再生利用を進めるうえで、特に重要だと思われることとして、「過剰包装の是正」が約四割で最も多く、次いで「再生品の利用の推進」、「住民への普及啓発の充実」の順となっています。



♀県政への要望上位5項目（年齢別）

年齢	1位	2位	3位	4位	5位
20～29歳	北陸新幹線 (33.6)	スポーツ・レジャー施設等の充実 (28.7)	航空路線 (国内・国外)の拡充 (26.2)	雇用・労働対策/道路整備 (高速道路・橋を含む) (22.1)	
30～39歳	社会福祉/自然環境の保全 (26.4)	高齢化対策 (25.7)	道路整備 (高速道路・橋を含む) (24.3)	学校教育/医療・保健衛生 (22.9)	
40～49歳	高齢化対策 (34.1)	雇用・労働対策 (28.3)	物価・消費生活 (27.8)	社会福祉 (26.9)	道路整備 (高速道路・橋を含む) (22.4)
50～59歳	高齢化対策 (34.8)	社会福祉 (34.2)	物価・消費生活 (31.1)	雇用・労働対策 (27.3)	下水道の整備 (26.1)
60～69歳	高齢化対策 (40.7)	物価・消費生活 (30.8)	社会福祉 (29.1)	下水道の整備 (26.2)	医療・保健衛生 (26.2)
70歳以上	高齢化対策 (40.0)	社会福祉 (28.2)	物価・消費生活 (24.5)	下水道の整備 (20.9)	学校教育 (18.2)

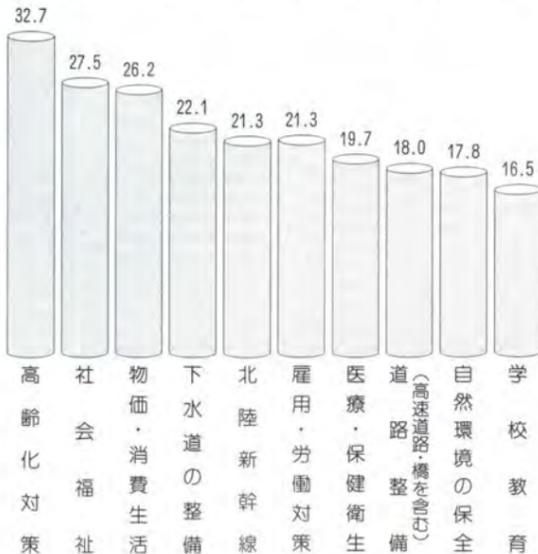
県政への要望としては、三年連続で「高齢化対策」がトップ。これは、本県では全国よりも早い速度で高齢化が進んでいることを受け、長寿社会に向けた施策へのニーズが引き続き高まっていることを示しています。

また、二位には「社会福祉」、三位には「物価・消費生活」があげられており、上位三項目はここ四年、順位の変動はあるものの大きな変化は見られません。なお、「雇用・労働対策」が前回の八位から五位になっており、近年の厳しい労働環境と不透明な雇用情勢に対する不安を浮き彫りにしています。

年代別では、二十歳代で「北陸新幹線」が、三十歳代で「社会福祉」と「自然環境の保全」が、四十歳代以上で「高齢化対策」がそれぞれ一位にあげられています。

県政への要望

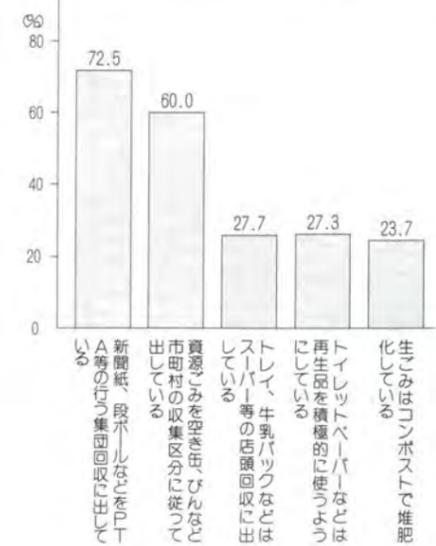
♀県政への要望（上位10項目・複数回答）



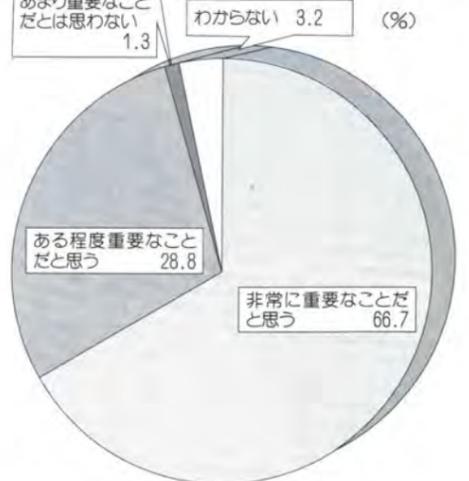
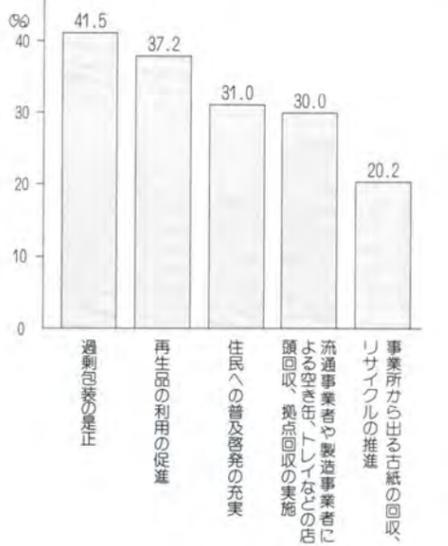
♀県政への要望上位5項目（平成3年度～平成7年度）

年度	H3	H4	H5	H6	H7
1位	高齢化対策 (34.3)	物価・消費生活 (32.3)	高齢化対策 (36.3)	高齢化対策 (36.7)	高齢化対策 (32.7)
2位	社会福祉 (31.1)	高齢化対策 (32.1)	社会福祉 (34.2)	物価・消費生活 (32.8)	社会福祉 (27.5)
3位	下水道の整備 (30.1)	社会福祉 (27.6)	物価・消費生活 (31.1)	社会福祉 (29.8)	物価・消費生活 (26.2)
4位	北陸新幹線 (24.5)	下水道の整備 (26.6)	下水道の整備 (25.9)	下水道の整備 (23.5)	下水道の整備 (22.1)
5位	総合雪対策 (24.3)	医療・保健衛生 (22.1)	北陸新幹線 (22.8)	北陸新幹線 (21.4)	北陸新幹線 雇用・労働対策 (21.3)

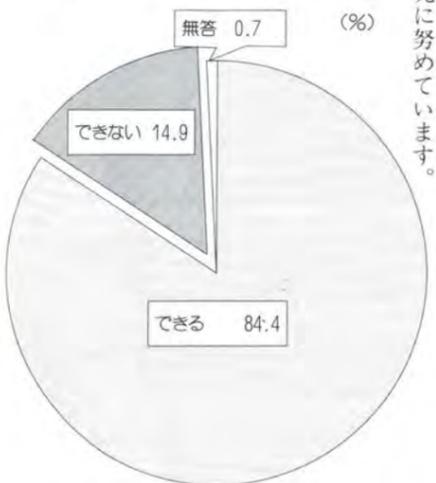
▶ごみの減量化や再生利用のため行っていること（上位5項目・複数回答）



▶ごみの減量化・再生利用の推進方策 ▶ごみ減量化や再生利用について



◆観光客に対して歓迎の気持ちを表すことができますか



今年本県で「全国都市緑化とやまフェア」や「国民文化祭とやま'96」といった全国的イベントが開催されることから、県外からの観光客の増加が見込まれています。

観光客に対して歓迎の気持ちを表すことができるか、という問いに対しては、八割以上の人が「できる」と答えています。一方、「できない」と答えた人は14.9%ですが、その理由として、「自慢できるものがない」が最も多く、以下、「土地柄」、「普段使わない言葉」(もてなしの言葉を使い慣れない)が続いています。

また、県外からの観光客を快く迎えるために必要なものとして、「全国に誇る自然環境を保護しながら、自然と親しめる場を整備すること」と答えた人が62.9%で最も多く、次いで「散歩したくなるような街並みの整備」、「リゾート・レジャー施設等の娯楽施設の充実」の順となっています。

県では、従来から「いきいき富山観光キャンペーン」を実施し、観光客の増大を図っていますが、平成四年のジャパンエキスポ富山の開催を機に「ようこそ富山キャンペーン」を展開するなど、県民の間にもてなしの心が醸成されるよう普及啓発に努めています。

観光富山



夜の海を
むれとぶ白鳥のように
帆をはばたかせて
島々をめぐり
美しい臉が
あけられぬうちに
わたしの影に
帰ってきたのを
空よ だまっ
ていてほしい
憂いや悲しみも
過ぎた日を
彩る陰影^{かげ}となる
このしずかな
夜明け
いまも誰かの
こころの海を
吹かれてゆく
だろう
みつからなかつた
ものを
ランプのように
揺らしながら



“遊び”の大切さを見直そう

トピックス②

児童環境シンポジウム開催

“遊び”は、子どもの健やかな成長にとってなくてはならないものです。しかし、近年の出生率の低下や核家族化、都市化の進展など、子どもや家庭を取り巻く環境が大きく変化するなかで、子どもがのびのびと自由に遊べる場や機会が失われつつあります。

県では、遊びの重要性を再認識し、子どもが健やかに生まれ育つ環境づくりへの理解を深めるため、12月3日、児童環境シンポジウムを開催しました。シンポジウムでは、「子どもの遊びと日本の将来」と題した仙田満東京工業大学教授の講演および「子どもと遊び」をテーマにパネルディスカッションが行われました。ここでは、パネルディスカッションの様相を中心に紹介します。



梅本 小学生を対象とした遊び環境の調査では、平日における屋外での遊び時間が、屋内の三分の一以下という結果が出ています。また、どんなグループで遊んでいるかという調査では、「同年齢・同性」が最も多く、年齢や性別の違う子どもが一緒に遊ぶことはほとんどないことが分かりました。このように今日の遊び環境は、昔とは大きく様変わりしています。これらを踏まえ、まず遊びの持つ重要性について皆さんの経験をもとにお話いただきたいと思っています。

泉 今の子どもは同年齢でしか遊ばないという話がありました。私たちの児童館では、ドッチボールなど異なる年齢でも遊べるようなものを取り入れていきます。好きな遊びに取り組んだときの子

ものパワーには目を見張るものがあります。特に、遊びの過程で壁にぶつかり、それを乗り越えた時の喜びは何物にも替えがたいものがあるようです。私はここに、遊びというものの意義を感じますね。

簡井 私は、いざ自分が母親になってみると、どうやって子どもを育てればよいか分かりませんでした。そのことが、今の活動を始めるきっかけになったんです。

活動を通じて気づいたのは、お母さん自身が遊べないこと。テレビゲームに子守を任せ、あまり子どもと遊んだことがないからでしょうね。私は、親と一緒に遊べないという意味で、今は子育てを含め遊びにとって、危機的状況にあると考えます。

宮脇 私は、自然や環境とのかかわり合の中で遊びを捉えていきたいと思っています。例えば、木を切って何かを作ろうとする時、初めて子どもたちはその木が生きていることを認識するのです。また、魚を食べるにしても、自然体験活動の中では、生きて動いているものを焼かなければなりません。可哀相だといって、なかなか食べられない子どももいました。このような活動は、私たちの生活が自然の犠牲の上に成り立っていることを知る意味でも重要だと思っています。

仙田 今の若者は、知識はあるのですが創造性や、協調性に欠けることはしばしば指摘される場所で、実際、共同研究が苦手な学生が多いですね。これは、子ども時代に満足できる遊び体験をしていない

◎パネリスト◎

仙田 満さん
東京工業大学教授
環境デザイン研究所長

泉 悦子さん
新潟市海老江児童センター児童厚生員

「子どもの遊び環境のデザイン」という新しいデザイン領域を開拓。富山県こどもみらい館を設計。

子どもたちが楽しみながら体力づくりをするために、自主性・忍耐力を育てるため、児童センターで一輪車活動を普及、指導。

の遊びを支援する中心的な役割を果たしていくためには、運営委員会が本場の活動母体になるよう努力していく必要があると思います。

簡井 遊びという点からみれば、富山県は本場に恵まれています。ただ、子育てサークルや遊びに携わる活動に対する視線が冷たいため、熱心に活動している人が途中で挫折するケースもよくあるんです。できれば、目的を同じくする人々がネットワークで結ばれ、お互いに励ましあいながら活動できるような、情報の提供や交流ができる場があればいいと思います。そうすれば、より人材育成が進むのではないのでしょうか。

宮脇 確かに、富山県は自然が豊かでいい遊び場がたくさんあります。また、いろいろな活動をしているグループもいます。ただ、それらに関する情報が一般の人々の手に入りにくいことが問題なのです。そのために例えば、遊び場や活動グループ、催しなど、子どもサイドから見た情報だけを掲載した情報誌をつくってはどうでしょうか。

仙田 先ほどの簡井さんのお話にもありました。必要なのは、遊びをマイナスのイメージではなく、プラス的に捉えることでしよう。私は、遊びと学習が表裏一体のものであることを強調したいですね。ま

ことに起因します。遊びは、創造性を養う場であると同時に、社会性や感性を培う場でもあるのです。

梅本 皆さんの話からも、遊びの持つ重要性が分かりました。では、子どもたちの遊びの充実に向け、今後どのような取り組みをしていけばよいか、皆さんの経験を交えながらお話しただきたいと思っています。

泉 私たちの児童館では、昭和五十六年から一輪車活動を取り入れたところ、集中力が養われたり根気が出てきたり、様々な効果があらわれています。中には、家族ぐるみでの活動も見られ、親子の交流にも役立っています。重要なのは、私たちが子どもの遊びに理解と関心を持ち、それを認めてあげること。それが子ども

た、親たちの遊び体験が希薄になっていくことも問題です。子どもたちの遊びを支援する大人、いわば遊びを指導するブレイクリーダーがますます重要な時代になっていくと思います。

梅本 パネリストの皆さんの意見を聞いてみると、遊びの問題の根の深さを感じました。会場の皆さんも、今日提言のあったことを踏まえて少しでも実践に移していただければと思います。

ここで紹介した以外にも、パネリストの皆さんからは様々な意見・提言がありました。また、会場の出席者からは、「自分が子どもに対して何をしてきたかを、改めて考えさせられた」、「日常のちょっとした子どもとの触れ合いが大切」などといった声も聞かれました。

富山の未来を担う子どもたちのためにも、今一度遊びを見直す時期に来ているのではないのでしょうか。

◎パネリスト◎

筒井 紀恵さん
手づくりおもちゃ研究会 代表
「おもちゃの館 ネットワーク」委員

私たちの意欲や自信につながっていくんです。筒井 今ほど親子の交流の話が出ました。が、子どもの世話をし、子どもと交流するなかで、親のあるべき姿が分かってくるものです。また私は、親子の交流から、親どうしの交流、さらには地域や学校の交流へと展開するのが理想だと思います。うちの子だけよければいいという考えは捨てて、地域全体でおおらかに子どもたちを見守り育てていくことが大切だと思いますね。

宮脇 私も遊びを通じた親子の交流が非常に大切だと思います。ただ、その質が問題なのです。例えば家族でドライブに出かけるにしても、お父さんはただの運転手で、子どもと目的を持って一緒に何かをするというところはほとんどないよう

◎パネリスト◎

宮脇 廣さん
わんぱく山荘

子どもが自然のなかでのびのびと遊べるように、夏に平村で「わんぱく山」を開設。写真集「五箇山杉尾モノ語り」を出版

おもちゃの作成等を通じて、子どもたちの主体性・創造性を伸ばすため、「おもちゃばこ」を組織。こどもみらい館を中心に活躍中。

◎コーディネーター◎

梅本 清一さん
北日本新聞社論説委員

泉 児童センターでは、三年前から「育成ボランティア」募集しています。これらの方々はセンターの運営委員になってもいい、多方面から意見を求めています。また、運営委員は県内のいろんな施設の状況を視察し、活動に役立っています。児童館や児童センターが、地域の子どもたち

遊具・おもちゃデザイン コンテスト作品募集

- 作品募集/木を使った遊具・おもちゃのデザイン画(着色)
 - 応募バ切/平成8年1月31日(水)
 - 応募資格/日本国内に在住の個人又はグループ(年齢等の制限はありません)
 - 賞 /大賞 1点 賞状及び賞金50万円
優秀賞 2点 賞状及び賞金10万円
佳作 5点 賞状及び賞金5万円
- 〈詳しい応募要項をお送りします。〉
- お問い合わせ先
富山県こどもみらい館 TEL 0766(56)9000

第13回全国都市緑化とやまフェア 彩りとやま緑化祭'96

全体会期 平成8年4月20日(土)～9月1日(日) 135日間
 提唱 建設省
 主催 富山県・高岡市・砺波市・財都市緑化基金

【先取り情報④】

今回は、もうひとつのメイン会場「高岡おとぎの森公園会場」の見どころを紹介いたします。



メイン会場 高岡おとぎの森公園会場 (高岡市佐野・上黒田)

■会期/平成8年7月12日(金)～9月1日(日)
 ■テーマ/みどりと遊び
 花と緑がいっぱいのメルヘンの世界で、夢のある遊びが体験できます。

●●●主な見どころ●●●

- 緑のびのびランド
 - ・虹の形に色とりどりの花が咲き乱れる、超巨大な「ようこそ花壇」が皆様をお出迎え
 - ・おもしろキャラクターが大集合「おとぎの森ステージ」
- 水いろどりランド
 - ・楽しい噴水やカスケードのある「かつばの広場」で水遊び
 - ・千保川のほとりを彩る「ワイルドフラワー」の大花園
- 花いきいきランド
 - ・愉快なマリオンネットミュージカルシアターや、アトリウムガーデンなどがあるメインパビリオン「おとぎの森館」
 - ・花の似合うこれからの住宅を提案する「花のメルヘンハウス」
 - ・バラ園など、世界の庭がせいぞろい「メルヘンガーデン」
 - ・ドライフラワー、ハーブ、薬草などで花のある楽しい室内空間を提案する「みつばちキャラバン隊テーマ展示館」
- 夢わくわくランド
 - ・県内初登場のドラゴンコースター、ウェーブチェアなど、おもしろ遊具がいっぱいの「アミューズパーク」
 - ・ゲームやマルチメディアの世界を体験できるおもしろワールド「遊びのプラザ」

「手づくり花飾り」参加者募集

緑化祭メイン会場を皆さんの手で飾ってみませんか。

- (1)募集部門
- 和風の花飾りコンテスト
(かがり火型プランターに花飾りをつくる)
 - コンテナガーデンコンテスト
(樽型プランターに花飾りをつくる)
 - コンテナのアイデアコンテスト
(自作のフラワーコンテナに花を植えて出展)
 - ハンギングバスケットコンテスト
(ハンギングバスケットに花飾りをつくる)
- ※プランター、草花等は事務局で準備(コンテナのアイデアコンテストを除く)
- (2)参加資格
 県内に在住、通勤、通学している個人または5名までのグループ(ハンギングバスケットは2名まで)
- (3)応募期限 平成7年1月31日(水)
- (4)展示期間
 メイン会場(高岡古城公園・高岡おとぎの森公園)の会期中【平成8年7月12日(金)～9月1日(日)】
- 問合せ先 全国都市緑化とやまフェア事務局
 〒933 高岡市本丸町7-1(本丸会館内)
 ☎0766-25-1510

おトクなメイン会場前売入場券 好評発売中!

主な旅行代理店、プレイガイド、JR駅、コンビニエンスストアでご購入いただくか、町内会などからの「回覧申込書」により申込み下さい。

精神保健元年と 心の健康を支える人たち

医療法人 魚津神経サナトリウム理事長

坂本信義



近ごろ精神・心・メンタルという言葉が目につく。阪神・淡路大震災の経験から精神的防災対策が取りあげられ、さらにオウム事件、いじめ自殺などで心の問題がクローズ・アップされるようになった。

わが国の精神障害者施策をみると、明治33年の精神病患者保護法以来、保護と治療に主眼が置かれ、偏見・差別が延々と続いた。昭和63年の新精神保健法で、人権尊重と社会復帰の促進がうたわれ、今年、「精神保健法」が「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」と名称を変えた。心の健康に関する保健(予防・医療(治療)・福祉(ケア))の体制がようやく整ったと言える。タイミングよく本県では全国に先駆けて平成6年を「富山県の精神保健元年」と唱え心の健康に重点をおくようになった。この言葉にどれだけ多くの関係者や家族が感激し、心強く思ったことか。是非とも実りあるものにしてほしい。

大学や病院の勤務医として、治療のみに専念していた私が魚津で開院したのは、昭和四十一年。その頃は、「精神病」という言葉に強いアレルギーがあり、障害者や家族は肩身の狭い思いで相

談する人もいなくなった。老練すると家族が背中に名前を縫い付け見張るのが精一杯である。老人クラブの活動もまだ板についていなく、東部社会福祉事務所では情報提供とネットワーク作りに奔走し、「医療費もタダになるし、安心して長生き出来るよ」と各地区で説明会を開き、私もしんがりの講演を受けもった。窓の硝子に当るアラレの音。火鉢の側で熱心に説明している職員が浮かぶ。彼らは、今日の長寿社会の一翼を担ったといつてよい。

滑川市の福祉課の方々と、一人暮らしの老人や障害者の家を訪ね、土地のナマリでない心を通じ合わせることを教わったり、また家に入れてもらえず木戸越しで一時間も話しかけた。そのほか黒部保健所の心の健康相談や同行訪問、児童相談所の精密健康診断、厚生施設新川むつみ園、特老おらはうす宇奈月、黒部精神保健推進協議会や障害者の家族会等は私の知っている「心の裏方さん」たちである。彼らを通じて感じたことを二点に絞ると、まず障害者をサポートする現場の苦勞は大変だ。自分だったら出来ないのでは? 次に障害者や家族の心の痛みを理解していたつもりだったが、実際に体験して初めて自分の偏見に気づいた。第三として善意が逆に障害になることがあり、情報交換と研修が必要である。そしてそれは自身の研鑽にもなる。

県内の障害者の施設に働く人は六千人以上(表)。そのほか精神障害者家族会(一、四五〇人)や前述の保健所、市町村保健婦、ボランティア、さらに教育や福祉関係の担当者に職場、家庭まで加えると人間社会はみんな心の健康を支え合って成り立っていることに気づく。精神保健の地域資源を育て、心の悩みや心の病に適切に対応できる地域づくりをめざしたい。

	職員数
病院および精神保健関係機関等	約 3,000
児童福祉施設等	約 450
精神保健協会および精神薄弱者援護施設、老人福祉施設等	約 2,200
特殊教育学校等	約 700

お知らせ

「戦後日本のポスター100」展開催

県立近代美術館所蔵のグラフィックデザインのうち、戦後日本のポスター史を一望できる101点の展示会を新川文化ホールで開催します。明確なテーマをグラフィックにより表現したポスターは、広告・宣伝媒体としてのみならず、生活空間を華やかに飾る芸術として私たちの目を楽しませてくれることでしょう。

期間 1月7日(日)～21日(日)・(1月9日・16日は休館)
場所 新川文化ホール
入場料 無料
問合せ 新川文化ホール ☎0765-231123

児童手当制度のお知らせ

児童手当制度は、次代の社会を担う児童の健全な育成及び資質の向上に資することを目的としています。

- ① 3歳未満の児童を養育している父または母。支給要件
- ② 父母がいない場合で、3歳未満の児童を養育している養育者。

※ただし、いずれの場合も国内に住んでいること(国籍は問いません)。

手当を受けるときは、今お住まいの市町村役場福祉課窓口にて認定請求の手続きが必要です。なお、請求者の前年の所得が一定額以上の場合には、所得制限により手当は支給されません。

詳しくは、市町村役場福祉課窓口でお問い合わせください。

県立近代美術館 「みんなであつくるう96」開催

県立近代美術館では、広い展示室が子どもたちの自由な造形でいっぱいになる展覧会「みんなであつくるう96」を開催します。

この展示会では、造形活動に意欲的に取り組む17の学校(園)の参加を得て、総勢二千名の子どもの手による夢あふれる作品を紹介します。会期中には、子どもたちのための行事も開催しますので、ご家族みなさんと美術館での楽しいひとときをお過ごしください。

会期 1月5日(金)～2月4日(日)

休館日 月曜(祝日は除く)

観覧料 小・中学生100(60)円

高校・大学生160(100)円

一般 200(160)円

()内は、20人以上の団体料金

問合せ 県立近代美術館 ☎0764-217111

「雪美の庭」開催

富山の冬の風物詩としておなじみの「雪美の庭」を、今年も県庁前公園を舞台に開催します。雪囲い・雪吊り等伝統的な造園技術を応用した芸術的な造形が、降りつもる雪によって、またライトアップによって、美しく冬の公園を彩ります。ぜひ足を運んでみて下さい。

会期 平成7年1月15日～2月28日

会場 県庁前公園

問合せ 県庁都市計画課 ☎0764-44-3348

太閤山ランド「左義長まつり」開催

「左義長まつり」が太閤山ランドで、次のとおり開催されます。会場では、おしるこのサービスや、子供達を対象とした福引きなども行われます。新年の行事の締めくくりとして是非お越し下さい。

日時 平成8年1月15日(月) 午前11時

場所 県民公園太閤山ランド 野外劇場前

問合せ 太閤山ランド管理センター ☎0766-56-6116

旧立山温泉に関する写真等の情報募集

富山県と建設省立山砂防工事事務所が共同で計画を進めている「立山カルデラ砂防博物館(仮称)」の展示・収蔵資料として、旧立山温泉の往時の様子がわかる写真・映像及び民具等に関する情報、昭和40年代以前の立山カルデラの自然や常願寺川流域の治水・砂防工事の様子がわかる写真等の情報を募集しています。

問合せ 県庁砂防課 ☎0764-44-3341

放送大学富山地域学習センター 平成8年度第1学期学生募集

放送大学では、次のとおり平成8年度第1学期(平成8年4月2日～平成8年9月30日)の学生を募集しています。

入学資格 18才以上ならどなたでも入学できます。

受講科目 幅広い分野にわたる300科目の中から選択

(一科目からでも受講可)

受講方法 ビデオテープ・オーディオテープで受講

募集期間 平成7年12月15日～平成8年2月15日

問合せ 〒939-03 小杉町黒河5180

放送大学富山地域学習センター(富山県立大学内) ☎0766-56-9230

平成8年度 県民カレッジ自遊塾 県民教授(学習ボランティア)募集

県民カレッジでは、主として職業人を対象に、異分野交流と共同学習の機会を提供する自遊塾を開設します。

ユニークで、多様なテーマの講座が、5月から県民教授(学習ボランティア)と塾生の自主運営により始まります。

ついては、県民教授を次の通り募集しますので、ふるってご応募ください。

- ◆対象 原則として60歳未満の県民
- ◆テーマ内容 原則自由(ユニークなもの歓迎)
- ◆提出書類 最寄りの公民館や県民カレッジに備え付けの講座企画書に、テーマやプログラムを書いて 県民カレッジあて提出

啓 発

はたちの献血キャンペーン

1月6日から2月5日までの1か月間、新たに成人式を迎える「はたち」の若者を中心として、広く献血を呼びかける「はたちの献血キャンペーン」が全国的に展開されます。

献血は成分献血と400ml・200ml献血の3つの献血方法から選ぶことができます。中でも成分献血は血液中の血漿や血小板だけを献血していただく方法で、献血者にとって負担が少なく、輸血者にとっても輸血の安全性の確保に必要とされています。

献血は人と人とのあたたかなコミュニケーションです。今、

若い人達のやさしい思いやりの心をお待ちしています。

ピ・ポ・バすばやいコール110番 1月10日は「110番の日」です

110番は、県民と警察を結ぶホットラインとして広く使われ、各種事件事故の早期解決に大きく貢献しています。一般電話や携帯電話でどこからかけても警察本部通信司令室につながりますので、事件や事故にあたり目撃したときは、あわてず落ち着いて110番しましょう。

消雪用地下水の利用は合理的に

地下水は、涵養と利用がバランス良く行われれば永久的に利用できる県民共有の貴重な資源です。しかしながら、冬期間は消雪設備が一斉に稼働することにより、大幅に地下水位が低下する恐れがあります。

消雪設備の稼働にあたっては次の事項に十分留意し、地下水の合理的利用及び節水に努めましょう。

- (1) 消雪設備の管理者を定め、適正な散水に努めること。
- (2) 降雪検知器を取り付けていない消雪設備については、できるだけ取付けること。
- (3) 降雪検知器の維持管理を徹底すること。

問合せ 県庁環境保全課 ☎0764-44-3145
または、最寄りの市町村環境担当課

県内人口は 0.3 パーセント増

昨年10月に実施した国勢調査の人口と世帯数についての結果は次の通りです。

- 人口(10月1日現在)
1,123,036人
【前回(平成2年)調査時より2,875人(0.3%)増】
- 世帯数(10月1日現在)
337,166戸
【前回(平成2年)調査時より22,564戸(7.2%)増】

国勢調査の結果は、今後の施策に利用させていただきます。みなさまご協力ありがとうございました。



みなさんの相談窓口

- 県政について
県民相談室 富山市新総曲輪1-7(県庁内) ☎(0764)31-4111代 31-3131(県民相談電話)
- 高岡地方県民相談室 高岡市赤祖父211(総合庁舎内) ☎(0766)21-9411代
- 魚津地方県民相談室 魚津市新宿10-7(総合庁舎内) ☎(0765)24-5311代
- 砺波地方県民相談室 砺波市幸町1-7(総合庁舎内) ☎(0763)33-5151代

- 物価ダイヤル
物価に関する苦情や相談があればお気軽にお電話ください。☎(0120)16-7400(県庁県民生活課内)
- 消費生活については
消費生活センター
富山市安住町7-18 安住町第一生命ビル内
(一般相談は) ☎(0764)32-9233
(金融相談は) ☎(0764)32-3252
消費生活センター高岡支所
高岡市本丸町7-1 本丸会館内 ☎(0766)25-2777
- 交通事故については
富山県交通事故相談所東別館1階
☎(0764)31-4111 内4400
- 相談110番
家庭問題・悪質商法・寛せい剤など、どんな相談にも応じます。
☎(0764)42-0110
- シルバー110番
高齢者や家族の心配ごと、悩みごとに富山県高齢者総合相談センター
富山市舟橋南町5-14 社会福祉会館内
☎(0764)41-4110
- よい子の育児電話相談
子育てに関して心配や悩みはありませんか。どんなことでもお気軽にお電話ください。
☎(0764)33-4150(県庁生涯学習室内)

県からのホットニュース

- 見て、聞いて、ご意見をお寄せください。
- テレビ広報
■ チューリップテレビ 毎週土曜日 AM9:25～9:40 「ふるさとトーク」
- 富山テレビ 毎週日曜日 AM9:00～9:30 「112万人のひろはークイズ/フォーカス・イン」
- 北日本放送 毎週日曜日 AM11:00～11:30 「こんにち富山県です」
1/7 未来へのメッセージ ～富山の文化財～
1/14 冬の富山の楽しみ方
1/21 ボランティアは今
1/28 私たちのふるさとづくり ～滑川市～
- ラジオ広報
■ FMとやま「ふれあいホットライン」
県内各地からホットな話題をクリアなサウンドでおとどけます。
毎週月～金曜日 AM9:50～9:55
- 新聞広報
■ 北日本、富山、読売、北陸中日、朝日、毎日
毎月第2、最終土曜日
「県からのお知らせ」

平成8年2月街頭献血日程

日曜日	献血場所	時間
10	富山アピタ前	10:00～16:30
11	砺波市コスモタウン(新築)駅前 ショッピングセンター前	10:00～16:00
13	大門町総合会館前	9:30～12:00
	大島町役場前	13:00～16:00

※都合により変更する場合がありますので、当日の新聞・テレビの街頭献血案内等でご確認ください。

● 富山県赤十字血液センターでは、毎土曜日及び第2・第4日曜日も開所し(祝祭日除く)、献血を受け付けています。(受付時間9:00～16:45)
富山県赤十字血液センター
富山市飯野26-1 TEL(0764)51-5555

やまの祭事記



出世魚の鱒にあやかかって

無病息災を

下村の加茂神社では一月一日、長寿の祝いや厄年の人の安息を願い、「鱒分け神事」と呼ばれる全国にも例を見ない珍しい祭礼が行われる。

元旦の朝、神社に続々と集まってくる礼装に身を包んだ子どもたち。神前には、加茂地区から三本、小杉、柳瀬の各地区から一本ずつ献上された計五本の鱒が並ぶ。宮司の祝詞奏上とともに、羽織袴姿の「よみあげ役」が神前に進み出て、鱒の鱧を立てて一本一本高々と持ち上げ、それを献上した地区の名を読み上げる。これらは、それぞれ「鱒の鱧立て」「鱒のよみあげ」といわれ、この神事の最も特徴的な部分である。続いて、賀寿や厄年にあたる人々から奉納された物を宮司が一つ一つ披露。最後に、「料理役」が加茂地区の三本の鱒を地区の戸数に切り分ける。他の二地区の鱒はそのままの形で両村の当番に引き渡され、地元を持ち帰って各戸に配られる。各家庭ではこれらを炙って食し、その年の家内安全、無病息災を祈るのである。

さて、出世魚の鱒にあやかり幸せを請い願うこの「鱒分け神事」だが、その起源は平安時代にまで遡るといわれる。長い年月を経るなかで、神事の様態も変遷してきたと思われるが、新年がよい年であってほしいと願う人々の素朴な気持ちは、今も変わらない。

暮らしのQ&A



お答えします

くらしの中でのちょっとした質問

Q 自動製氷器付きの冷蔵庫の氷に、何か混じっているようなのですが、大丈夫ですか。

A 混じっているものが白い場合は、一般的には、水中に含まれているミネラル分（カルシウムやマグネシウムなど）で心配ありません。水の成分は、地域によってかなり異なり、ミネラル分の多い地域では、氷の中に白く混じる場合があります。

しかし、混合物が水あかやカビという場合もないわけではありません。何か異物が混入している場合、それが何であるかは、氷そのものと供給源の水の水質をチェックすれば推測できます。

Q なお、自動製氷タイプは便利ですが、週一回程度は手入れをしましょう。

Q 浴槽やトイレの水面の縁に付いて、固く赤茶色になる水あかの成分と取り方を教えてください。

A 水道水に含まれるカルシウムやけい酸、鉄分といった成分が、便器や浴槽の表面で乾燥し、付着したものが水あかです。

浴槽の湯あかや水あかは、初期段階なら酸性タイプの浴室用洗剤を使いスポンジですすいで洗います。また、トイレの目地の黒ずみはほとんどがカビです。クレンザーとブラシで洗い落とすから、カビ取り剤を塗るとよいでしょう。

トイレの便器が、鉄サビで変色したら、液体クレンザーとブラシで洗い落とします。また、黄ばみが目立ってきたら、アルカリ性のトイレ用洗剤をかけて二・三分おいてからブラシですすいましょう。

ところで、最近は便利な洗浄剤が数多く出ていますが、塩素系と酸性タイプを混ぜて使うと有害な塩素ガスが発生します。表示を確認して、正しく効果的に使いましょう。

相談は、県消費生活センター、電話0764(32)9233、高岡支所、電話0766(25)2777

編集後記

★休み時間に友達とどう接すればいいかわからない子どもが増えているそう。今日は何して遊ぶか、そんなことだけ考えて学校に通っていた自分には信じられない。児童環境シンポジウムでは、創造性、社会性、そして感性を養う意味での遊びの大切さが議論された。遊ばない子どもは、知識はあっても、人とうまく関わりあえないかが判らず、問題の所在を明らかにする能力に乏しいという。

「遊んでばかりいないで勉強しなさい」といわれて育った自分だが、「勉強はいいからちゃんと遊びなさい」といって育てる時代が来るのも、そう遠い先のことではないかもしれない。(K)

★今回、「とやま遊学館」の取材で世界遺産に指定された上平村菅沼地区を訪れた。人類全体の宝に指定された各家庭には、日々の暮らしを営む人々の姿がある。今後、観光と日常生活の両立という難しい問題が生じてくるに違いない。しかし、こうした問題は県民全体で取り組み、そこに住む人々を様々な側面から応援していくしかないと思う。(Y)

今月号で掲載したPIN UP TOYAMAの写真
を抽選で5名の方にワイド六ツ切(25×18
センチ)でプレゼントします。希望される
方は、官製ハガキで下記の様式でお申し込
みください。平成8年2月24日消印有効です。

富山県広報課 写真プレゼント 1月号係あて	930 80
氏名	
住所	
電話	
本誌を読んだ感想	

人々の輪に囲まれて飛翔する色とりどりの鳥たちは、自然と共生する富山の姿です。(デザイナー 福田繁雄氏)



今年秋、いよいよ第11回国民文化祭とやま'96が開催されます。

テーマは「いのちとくらし—とやまマンダラ大絵巻」。

主催事業には、「パレード」、「開会式」、「閉会式」の3事業と、「自然との共生」など富山の自然、文化をテーマにした3事業を予定。また、分野別事業としては、本県の独自事業である「富山湾上フェスティバル」、「立山フェスティバル」、「万葉フェスティバル」、「となみ野お祭一揆」をはじめ、音楽、演劇、伝統芸能、伝統文化、舞踊、文芸、美術、生活文化の各分野で26事業が展開されます。

さあ、「おいしい・楽しい・美しい」を合言葉に、県民総参加で県内一円にマンダラ大絵巻のように文化の花を咲かせましょう。



開催期間

平成8年9月28日(土)~10月7日(月)



主催

文化庁/富山県/開催市町村ほか



総事業数

32事業



問い合わせ

第11回国民文化祭富山県実行委員会事務局

☎ 0764-44-2183・2184

いのちとくらし—とやまマンダラ大絵巻

第11回国民文化祭とやま'96